

しりょうへん

(1) 津波についてしっておこう

津波からたすかるためには、津波をよくしることがたいせつです。

津波のちゅういするところ

- ① 地震のおきるところによっては、津波がすぐにおそってくるかもしれない。
- ② 津波はジェット機なみの速さでおしよせてくる。
〈海上の場合、例えば、深さが5,000mのところではジェット機と同じくらいのスピードです。また、深さ500mのところでは新幹線と、深さ50mのところでは自動車と同じくらいです。〉
- ③ 津波はくりかえしおそってくる。
- ④ 津波はばしょによって、たかさがちがう。
- ⑤ たとえ30センチていどの津波でも、立っていられないほどのちからがある。
- ⑥ 津波はうみから川をさかのぼる。
- ⑦ 津波がくるときは、さいしょにしおがひくとはいかぎらない。



!! このひょうしきにちゅうい!



津波避難ばしょ



津波避難ビル



津波ちゅうい



津波がくるところ

津波の大きさは、地震の大きさなどによってちがってきます。「まえの津波はいえまでこなかったから、つぎもこないだろう」とは、ぜったいおもってはいけません!

**津波がきそうなら、
たかいところへにげるんだよ!**



「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

(2) えきじょうかについてしておこう

うみや ^{かわ}川の ^{ちかく}ちかく、うめたてち などでは、
地震の ^{じしん}ときに「えきじょうか げんしょう」が
おこることがあります。

じめんから ^{みず}水が ^だふき出して ^{どろどろ}どろどろに
なり、マンホールが ^{うきだ}うきだしたり ^{たてもの}たてもの
が ^{かたむ}かたむいたりします。



写真提供：浦安市

(3) 土砂さいがいについてしておこう

台風や ^{きゅうな}きゅうな ^{おおあめ}大雨により、山の津波といわれる ^{どしゃ}土砂さいがいがおこることが
あります。土砂さいがいは、地震の ^ああとに ^{おこ}おこることも ^ああります。

【土砂さいがいの しゅるい】

^ど土石流



やま ^{かわ}川の ^{いし}石や ^{どしゃ}土砂が ^{しゅうちゅうこうう}集中豪雨な
どによって ^{いっき}一気に ^{かりゅう}下流へ ^お押し流
されます。

^じ地すべり



ねん ^ど粘土など ^{すべり}すべりやすい ^ち地層に
^ち地下水が ^さ作用して、^じ地面が ^ゆゆ
くりすべて ^{うご}動き出します。

^{くす}がけ崩れ



^{しゅうちゅうこうう}集中豪雨などに ^{きゅう}により ^{しゃ}急な ^{めん}斜面
が ^{くす}崩れ落ちます。

【土砂さいがいの まえぶれ】

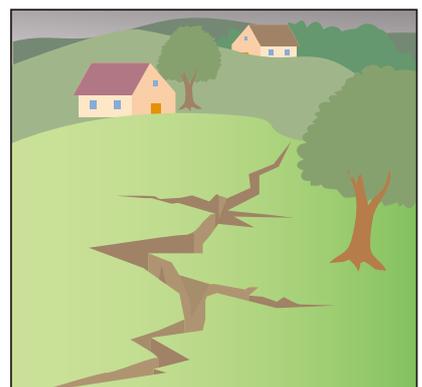
つぎのようなまえぶれに ^{ちゅうい}ちゅういしよう。



^{かわ}川の ^{なが}流れが ^{にご}濁り ^{りゅうぼく}流木が
^ま混ざり ^{はじ}始める。



^{しゃめん}斜面から ^{みず}水が ^だふき出す。



^{じめん}地面に ^{ひび}ひび割れができる。